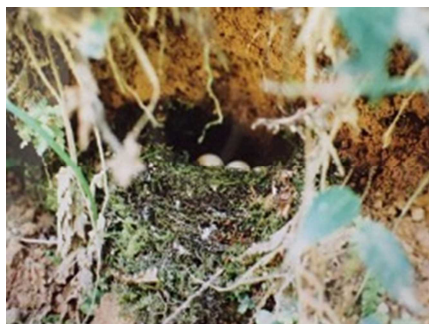


雄が先か雌が先か

1. ヤブサメ

越冬した南から渡来し、夏鳥として打吹山で繁殖する鳥の中で、先頭を争うのがヤブサメです。しかし、存在感の薄い鳥です。ウグイスの仲間ですから地鳴きはチャッチャッと聞こえますが、濁るうえに弱く、迫力がありません。しかもあまり鳴きません。渡来してきたことの確認は、か細いシシシシ シシシシという虫の鳴くようなさえずりです。鳥の鳴き声であると知らなければ聞こえない音です。早い年は3月下旬に聞くことができます。



抱卵中のヤブサメ

シシシシはさえずりですから、他の鳥と同様に雄が鳴いています。他の夏鳥も同様に、雄がさえずっていることで渡来を確認します。このさえずりはナワバリを持ち、遅れてくる雌の渡来を待つために必要な仕事なのです。雌の地鳴きはほとんど聞けませんし、姿を見る機会も少ないのですが、営巣を開始する時期になると藪の中を動く姿でそれとわかります。

ヤブサメの営巣場所は、岩や崖に生育する樹の根元の陰です。薄暗い場所で、雌雄ともに同じ茶褐色の体色のため、動かなければほとんど気づけません。そのことを知っているのでしょうか、抱卵中は1~2mくらいまで近づかなければ、巣から飛び立って逃げることをしません。写真は、飛び出されてはじめて気づいた抱卵中だった巣です。

2. ヒメカンスゲ

まだ寒さが残るものの、植物の活動を感じるこの時期に、薄黄色で存在感を示すものがあります。遊歩道のどこにでもあるのに意識しなかったヒメカンスゲの株が一斉に花茎を立て、たくさんの黄色ブラシの束になっているからです。



ヒメカンスゲの雄花

スゲの仲間は丈夫な葉が蓑(みの)や笠に利用される植物です。ヒメカンスゲは小さくて役に立ちませんが、代わりに他種より花が目立ちます。

花茎のブラシ様に見える部分は雄小穂の集合で、葯(やく)が黄色に見えているのです。その下方に数個の目立たない穂が離れてついていきます。こちらが雌小穂です。雄花が熟し、葯を突き出し黄色く見えはじめる前に雌花は柱頭を出しているのですが、その気になって覗かないと気づきません。白い縮れた糸状のものが、雌しべの柱頭の



ヒメカンスゲ



ヒメカンスゲの雌花

3つに分かれた部分です。雌性先熟で、雄花は後から熟します。写真のようにたくさんの細長い葯が花粉を風で飛ばします。株によって成熟に時間差がありますので、他の株の花粉を受けることができます。受粉できなかった場合は、後で熟す自分の花粉で受粉する事になります。できるだけ自家受粉を避けるための知恵です。また、風媒花は虫の少ないこの時期に開花しても問題がないのです。

(倉吉博物館専門委員 國本洸紀 2019)